

関聾研小史

(1)

関聾研は1955（昭和30）年9月20日、都立品川ろう学校で発足した。しかし、この会（関聾研）がこの日を発足日として突然できたのかと言えばそうではない。これ以前に「関東地区ろう教育研究実地授業研究会」と銘打たれた会や、「昭和24年研究大会」、「関東地区聴能教育研究会」などが先行していたことが『特殊教育』誌等からうかがえる。

『特殊教育』昭和30年12月号によれば、「関東地区では、去る9月28日、都立品川聾学校に於いて、関東地区聾学校の代表が集まって、めでたく『関東地区聾教育研究会』を発足させた。この研究会の第1回として、栃木校のご協力を得、地区聾学校実地授業研究会が、秋深き11月10日（土）、栃木県宇都宮市の栃木県立聾学校で開かれました。……」と記述されており、このときの参加校は25校となっている。

(2)

発足第1回研究会が栃木校の主管で行われたが、午前中、公開授業・研究授業、午後6つのテーマに分かれて研究協議会を行い、その後全体会（挨拶・報告等）というスケジュールであった。このようなスタイルは今も引き継がれている。

ただ往時の特徴的なことは、この関聾研が、午後の研究協議会で報告されたレポートの中から全国大会での発表校を決定する会でもあり、関東地区校の「研究発表コンクール」的色彩の濃いものであった点である。その点では現在の会といささか異なっていた。翌年（昭和31年）の代表者会議の議題は、「関東地区ろう学校研究会の方法について」というものだったが、問題の大きな柱が「『関東地区ろう学校研究会』を全国ろう学校研究大会の『予選会』と見てよいのか」ということであったこともそれを裏づけている。このように発足当初の関聾研について考察することは、今後の関聾研のあり方を考えていく上で参考になろう。

発足当初で現在と異なる点では注目すべきことは、学校全体で「教科」を取り上げた研究会が、「寄宿舎研究会」「授業研究会」とともに存在していたこと、さらに、研究会の回数が現在の倍ぐらい毎年開催されていたこと、「新任研」が各校持ち回りで開催されていたことなどである。

「寄宿舎研」についても是非ともふれておかなければならない。1982（昭和57）年附属校主管を最後に「寄宿舎研」は姿を消したが、それまでは1泊2日で開催され夜には懇親会も持たれた。その後は、毎年定例研究会の主管校で寄宿舎のある学校において「寄宿舎分科会」を開いていただくようにしている。

また、「養・訓」をテーマとして、1974（昭和49）、1975（昭和50）、1976（昭和51）、1979（昭和54）年と取り上げたのは、指導要領に新たに「養護・訓練」が入り、何をしたらよいのかというまどいの中でのその時代の課題であったためである。現在は、1993（平成5）年から研究主題の一つとして、毎年「養護・訓練研究協議会」が持たれ、平成12年度より「自立活動研究協議会」と名称を変更し、開催している。

平成13年度より、専門研究会も発足した。これは各校に担当者が1ないし2名しかいない領域等について、ろう学校の横のつながりをつくり、担当者が抱える問題を解決するためである。

（平成18年度 総会）